

令和8年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	児童・生徒の「生きる力」を育むために、資質・能力の三つの柱に基づく12年間を見通した系統的、発展的な指導内容を具体的に組織、配列し、特色ある教育活動を展開する。	①校外学習、校外行事について、小・中・高等部を通した系統性の整理を進め、学びが発展的につながる教育課程として位置付ける。 ②シラバスおよび年間指導計画、個別教育計画を授業実践と評価に確実に結び付け、全校で改善サイクルが機能する体制を定着させる。	①教務班が中心となり、校外学習、校外行事の系統性を見直し、必要に応じて改善し、教職員が共有できるように運営要項に反映し、学校全体で共有する。 ②各学部でシラバスおよび年間指導計画・個別教育計画を照合し、「身に付けたい力」「教科等のねらい」等を運営要項に追記・修正する。	①各学部の運営要項等に、校外学習、校外行事のねらいが明記され、次年度の学部運営要項に反映することができたか。 ②個別教育計画の評価を根拠に、必要に応じた授業改善を行い、日々の教育活動の実践や次年度計画に反映することができたか。
2	児童・生徒指導・支援	児童・生徒が自己を肯定的に受け止め「互いを尊重する心」を育むために、児童・生徒が抱える課題や困難をチームで確実に把握し、必要な支援の充実や授業改善の推進を図る。	①児童・生徒の背景や困難さをチームで捉え、家庭・関係機関と連携した支援を全教職員が共通の視点で実践できる体制を定着させる。 ②1人1台端末等のICT活用について、各教科等のねらいを明確にした教材研究と実践の共有を進め、児童・生徒の支援および授業改善に生かす。	①支援連携グループを中心に、ケース会等で支援の経過・外部機関とのつながりを整理する。 ②各学部でICT機器を活用した事例を蓄積し、データを共有する。	①関係機関との連携の流れや役割分担を整理し、本人・保護者が学校や社会とのつながりを保てる支援体制を継続して講じるとともに教職員が共通認識を持って、組織的支援を実施することができたか。 ②ICT機器等の教材の活用が各教科等の学びと結び付き、児童・生徒が自ら考えたり学びに向かったりする姿につながったか。
3	進路指導・支援	地域の中で豊かに暮らし、働くことにつながる教育活動を展開するために、地域との関係機関との連携・協働の充実を図る。	①小・中・高等部を通した進路指導・支援の流れを整理し、学年・学部段階に応じた自己理解と自己選択の機会を計画的に設定する。 ②地域や関係機関との連携を基盤に、児童・生徒が身に付けた力を実生活や地域で発揮できる場を充実させる。	①現行の進路指導・支援の流れを整理するとともに、発達段階や生活年齢に応じた自己理解や自己選択の教育活動を行う。 ②各学部が支援連携グループと連携し、生活単元学習、職業、校外学習等で「地域で力を使う場面」を年間計画に位置付け、支援の手立てを保護者や関係機関先と共有する。	①進路指導・支援の流れを整理することができたか。また、学年・学部段階に応じて、自己理解と自己選択の機会を設定することができたか。 ②各学部が、児童・生徒の得意さや支援の手立てを関係機関先と共有し、身に付けさせたい力を地域での生活や社会参加の場面で活用することができたか。
4	地域等との協働	地域との関係機関が積極的に学校運営に参画し、創造的な教育活動を展開するとともに、児童・生徒が地域の小・中学校等で安心して学べる教育環境を構築する。	①地域との協働活動を児童・生徒が地域の一員として役割を持ち続けられる学習活動として定着させる。 ②センター的機能について、校内外への発信と教職員の関わり方を整理し、学校全体で地域の特別支援教育を支える体制を充実させる。	①地域との協働活動について実態に則した形で整理し、教育課程をブラッシュアップする。 ②市内の特別支援学校と協働し、市教育委員会との情報交換会を行う。居住地交流について学部で共有し、交流校へはセンター的機能についての説明および案内を行う。	①地域資源を活用した教育活動について、ねらいと役割を整理し、継続的に実施できる取組として位置付けることができたか。 ②市教育委員会との情報交換会及び居住地交流を通して地域を支える体制づくりに寄与することができたか。
5	学校管理 学校運営	児童・生徒が安全に安心して学べるよう、専門性向上に向けた人材育成を充実させ、持続可能な教育環境の構築を図る。	①教職員が互いの専門性を活かし合い、学び合いや情報共有が無理なく継続できる学校運営の仕組みを定着させる。 ②防災・安全管理について、校内体制や備品整理、地域・行政との連携を整理し、児童・生徒の安全を確実に守る体制を構築する。 ③学校運営・校務・教育活動におけるICT活用を整理・統合し、学校DXを働き方改革と教育の質向上の両立につなげる。	①校内のOJTを活性化させ、その成果をデータ化して共有するとともにポスター発表などでも発信する。 ②防災物品の確認及び整理を行う。市の担当者や地域の方に来校していただき、福祉避難所を運営することについての具体的な相談を行う。 ③校務支援システムやアプリを導入して学校DX化を図る。	①校内OJTや対話・振り返りの機会を通して、教員同士が学び合い、専門性向上やチーム支援の充実につなげることができたか。 ②防災物品の整理を行うことができたか。市や地域との関係機関と連携できたか。 ③「すぐーる」、「スクールエンジン」、「知らせるバス」の導入により業務のスリム化が図れたか。